

凡例

土地利用現況 凡例

土地利用状況	
一戸建て住宅	黄色
長屋住宅	緑
共同住宅	オレンジ
販売商業施設	赤
業務施設	ピンク
文教施設	鮮緑
医療厚生施設	茶色
遊興・娯楽・サービス施設	マゼンタ
宿泊施設	紫
工業施設	青
供給施設	グレー
運輸通信施設	黄褐色
官公署施設	茶色
その他施設	グレー
公園・緑地・お墓	浅緑
建物のない土地	白

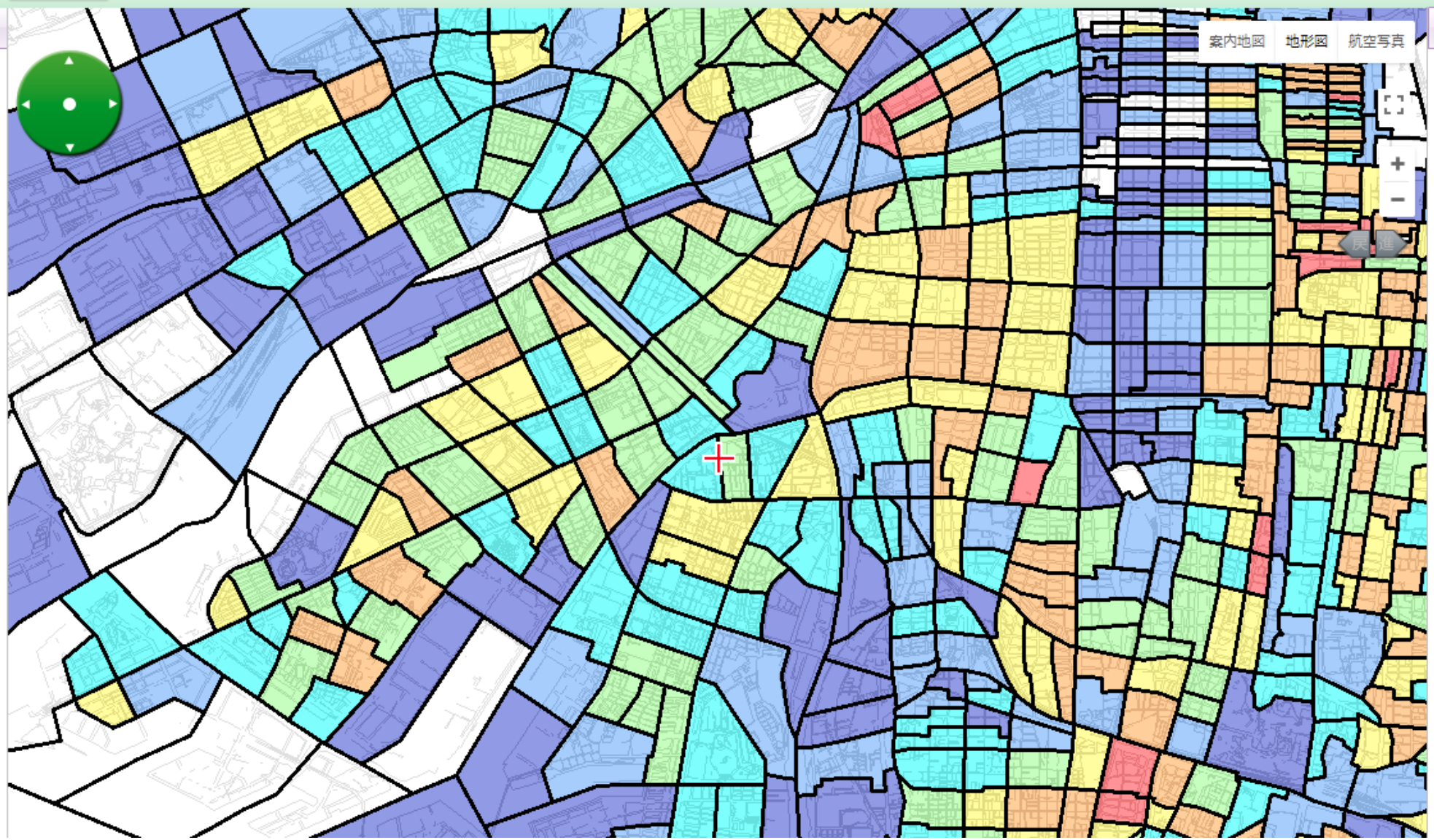
マップ切替

統計情報マップ
人口密度

住所検索

広域図

凡例



凡例

統計情報

内容	
0	
0.01	
4.00	
9.50	
15.00	
20.00	
25.00	
40.00	

人口密度
(千人/km²)

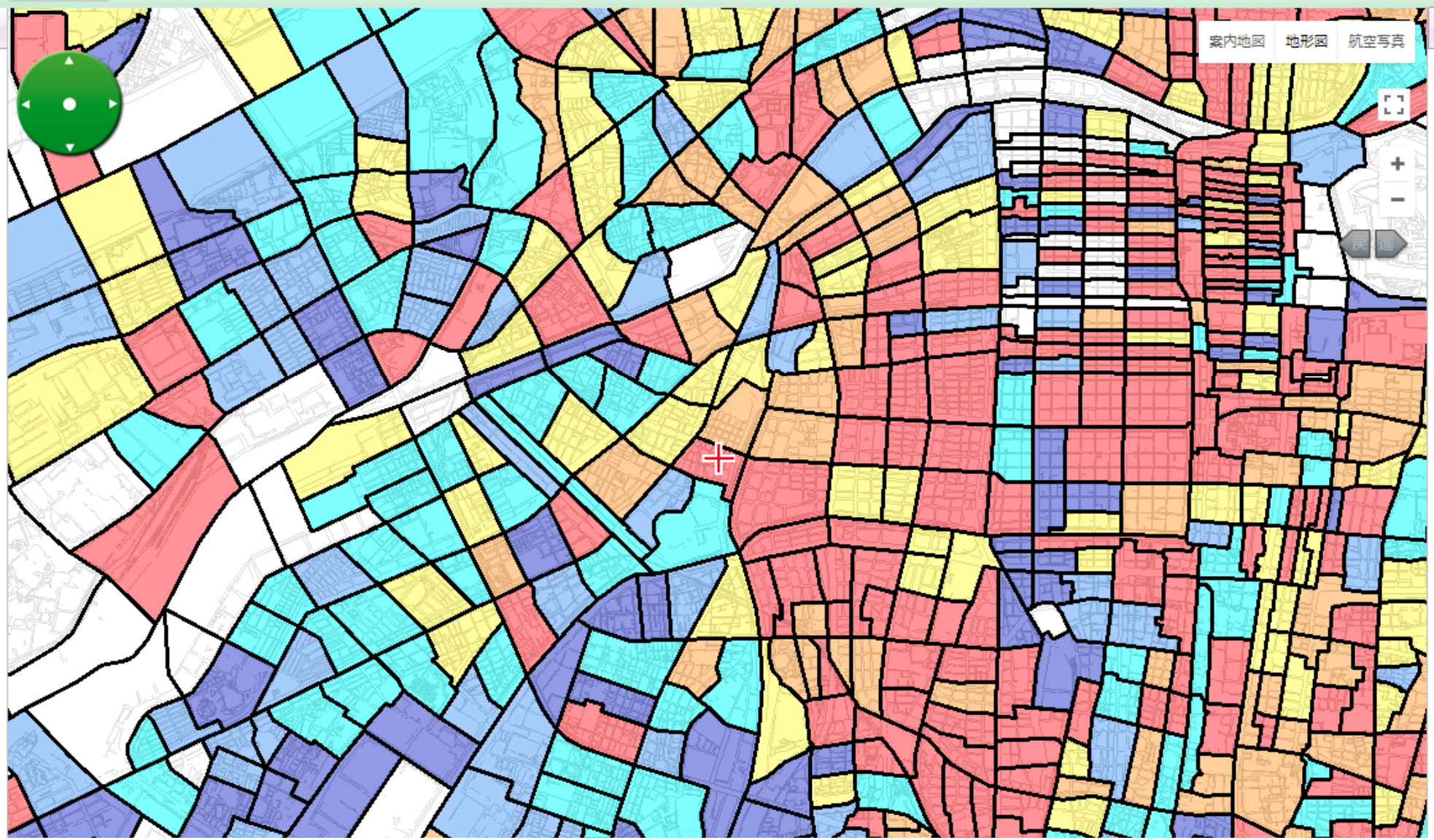
マップ切替

統計情報マップ
人口増減率

住所検索

広域図

凡例



案内地図 地形図 航空写真

凡例

統計情報

内容	
人口増減率	10%以上
	5 - 10%
	0 - 5%
	0
	0 - 5%
	5 - 10%
	10%以上

演習で使用する便利な参考資料について、随時ここに掲載し紹介しています。(担当：中條)

国土交通省ハザードマップポータルサイト

- ・使用例：対象地のハザードマップを調べる，想定条件を調べる

Google Mapsを用いた標高表示

- ・使用例：地盤高を調べて水害時の危険箇所を把握する（国土地理院API版を推奨）

標高がわかるWeb地図（国土地理院）

- ・使用例：地盤高の断面図作成

気象庁 過去の気象データ・ダウンロード

- ・使用例：対象地の気象特性の分析，過去の気象災害の定量評価

大阪大規模都市水害ガイドライン（国土交通省近畿地方整備局）

- ・使用例：洪水・高潮災害時の対策検討

南海トラフ巨大地震の被害想定について（内閣府）

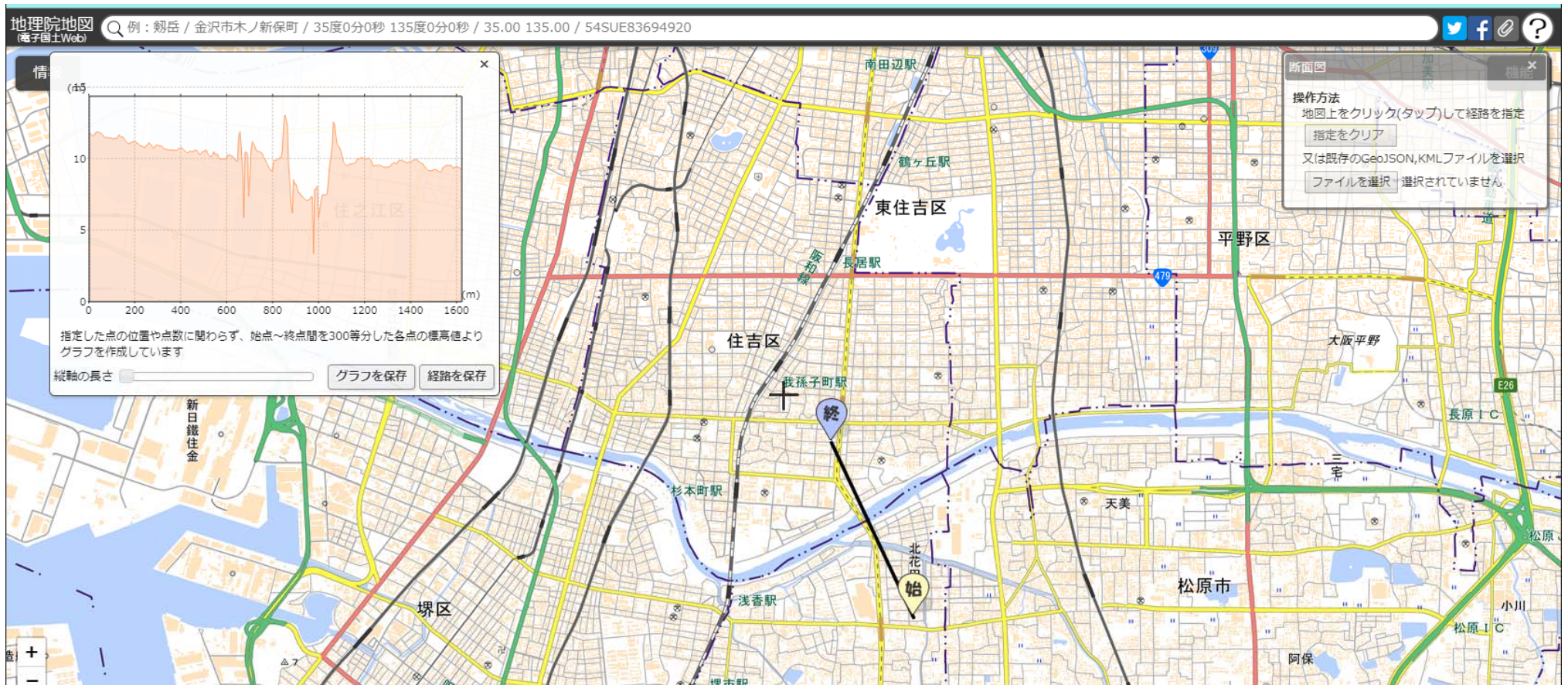
- ・使用例：地震災害時の対策検討

[検索](#)

提供科目

[安全防災総合演習 2018](#)[都市学総論 2018](#)

標高がわかるWeb地図（国土地理院）



安全防災のコンセプト決定における エッセンス

「クロスロード」を通じた防災上の課題抽出

クロスロード（京都大学他）：災害コミュニケーション
阪神淡路大震災の時に経験したジレンマに対する
体験型・対話型学習ツール



なぜクロスロード演習をするか

- 現地調査からその地域の課題を見つけ出すというアプローチももちろん重要ではあるが、それだけでは気付きにくい問題、社会構造とからみあった複雑な問題もある
- ハード対策の思考だけでまちづくりを考えていても、これまでの発想を超えるようなものは出てきにくい
- 災害時のジレンマを対象とした「クロスロード」を通じた演習から、自分たちの興味のある防災上の課題を選択し、その解決に対する工学的手法を提案する

クロスロードとは

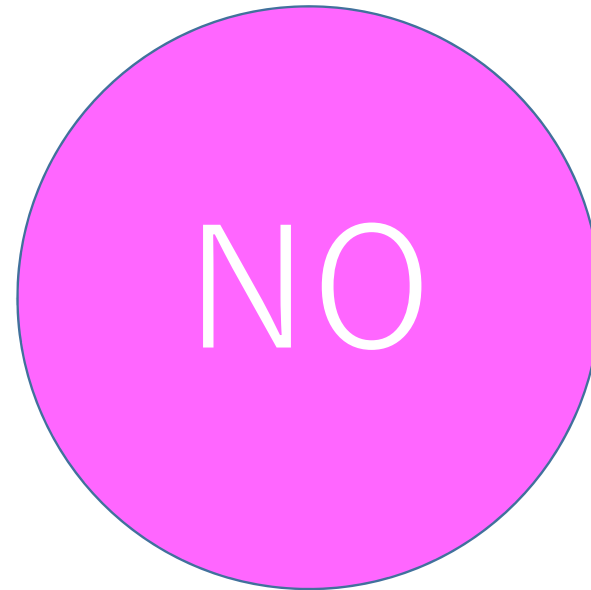
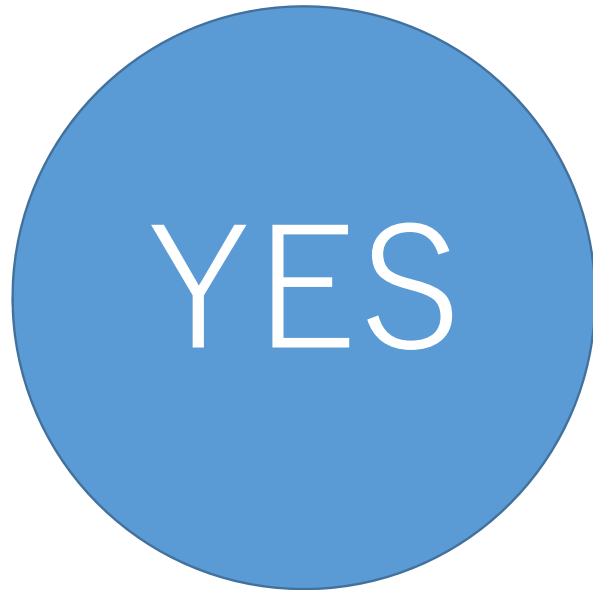
- 実際の災害体験に基づくジレンマについてYES-NO形式で解答し、その解答を基に議論する、ゲーミング対話システム。
- 唯一絶対の解答はない
- この演習では、クロスロードを通じて得た「コンフリクト」についての発見を基に、それを解決するための都市工学的アプローチは何であるかを考えて設計に盛り込むことを必須とする。
(ただし、クロスロード問題については演習時間内に議論したもの以外に各班で独自に考えてもよい)

クロスロードWSの意義

- 互いの回答を知らない中での意見表明によって、他人の顔色をうかがわない独自の意見を得られる
- 貴重な少数意見を吸い上げることができる
- 限られた時間内の問いかけによって臨場感が生まれる
- ジレンマの根っこにある課題を浮き彫りにする（何が本質的なのかを考える．そしてその答えも一通りではない）

Q1 あなたは自宅にいた市民です

- 自宅で地震に遭遇. 10分後に津波が来るといふ. 近所には一人暮らしのおばあさんがいるが **様子を見に行く?**



理由の聞き取りと多様な意見の抽出

YESにした理由	NOにした理由

双方が満足するためには、どんな条件が必要か？
どんな技術提案があれば解決に進み始めるか？を考える
対策案としてはソフト対策，ハード対策の両方があるといい

コンセプト発表における注意事項

- グループで考えたコンフリクトの具体例を挙げながら説明してください

クロスロード問題：00000 XXXX

